

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年6月25日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780442

研究課題名(和文) 多文化社会の学校教育における「21世紀型スキル」の受容に関する研究

研究課題名(英文) Development and acceptance of "21st Century Skills" in Education in Multicultural Society

研究代表者

下村 智子(Shimomura, Tomoko)

三重大学・教養教育機構・准教授

研究者番号：80557984

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、カナダの三つの州を事例とし、「21世紀型スキル」の学校教育における受容について、その内容や教育課程上の位置づけ、構築過程を通して、カナダにおける「21世紀型スキル」の受容とその特徴として、次の三点を明らかにした。

第一に、各州で示された「21世紀型スキル」には、個人の理解や幸福について考えるためのコンピテンシーがいずれも含まれているという特徴が明らかになった。第二に、教育課程においては、学習の基盤を支えるものとして位置づけられていることが明らかになった。第三に、「21世紀型スキル」の内容の構築過程については、市民や関係機関との「対話」と「熟慮」を基盤に進められた。

研究成果の概要(英文)：This research investigates how "21st Century Skills" are defined and how it is constructed in three provinces in Canada. Firstly, it contains attitudes focusing on personal growth and well-being as well as other skills and attitudes such as communication and thinking skills. Secondly, "21st Century Skills", it is called "competencies" in British Columbia, "core competencies" in Alberta, and "21st century competencies" in Ontario, is combination of knowledge, skills and attitudes which apply within and across all subjects. Thirdly, on the process of identifying and defining "21st Century Skills", each province had opportunities to have dialogue with not only with teachers and educational administrators, but also citizens with various cultural and societal background.

研究分野：教育学

キーワード：教育課程 資質・能力

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進展し、急速に変化する不確実な時代において、その急激な変化に対応しつつ、生涯にわたって学習を継続する自律した学習者 (Life-long Learners) となるには、どのような資質・能力を育成すべきかという議論は、世界的な広がりを見せている。中でも、アメリカ合衆国から始まった「21世紀型スキル」運動は、現在では北米、オセアニア、ヨーロッパ諸国等においても注目を集め、様々な形で再定義をする動きが広がっている。

カナダもその例外ではなく、例えば、オンタリオ州教育省は2010年よりオンタリオにおける「21世紀型スキル」の定義に向けて段階的に議論を開始している。また、ブリティッシュ・コロンビア州やアルバータ州では既に「21世紀型スキル」を教育課程に導入している。

本研究の中心的課題である「21世紀型スキル」「コンピテンシー」「スキル」等の用語に代表される、21世紀社会で通用する汎用的な資質・能力の育成について、各州で定義・導入されている「21世紀型スキル」とはどのようなものか(内容)、どう受容されてきたか(過程)、州の教育課程とのそれら資質・能力との関係はどのようなものか(位置づけ)等について具体的かつ詳細に検討した研究は、管見の限り見当たらない。また、「カナダ国民」の重要な一構成員でありながら、その異なる歴史的・文化的・社会的背景から、常に非先住民の教育とは分けて議論されてきた、先住民の教育という視点から、この課題について取り上げた研究も管見の限り見当たらない。

2. 研究の目的

本研究は、多文化主義を国是として掲げるカナダを事例とし、国際的に広がりつつある「21世紀型スキル」の学校教育における受容について、その過程と特色、課題について実証的に明らかにすることをその目的としている。具体的には、各州・準州で検討されている「21世紀型スキル」の内容とその検討・導入過程、非先住民との学力格差の克服が重要な課題として認識されている先住民の教育における「21世紀型スキル」の内容、そして以上をふまえ、多文化社会における「21世紀型スキル」の育成の汎用性と課題について明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、調査研究の内容でもある先の三つの「達成目標」を達成するために、文献資料による基礎調査、現地調査、文化的・社会的に多様な社会における「汎用的能

力」育成の意義と可能性に関する検討を行うとともに、グローバル時代におけるわが国の教育への示唆について考察を行う。

なお、調査の対象としては、「21世紀型スキル」を先進的に取り入れているアルバータ州とブリティッシュ・コロンビア州、2010年より検討を進めているオンタリオ州を取り上げた。

4. 研究成果

本研究の三つの目的について、それぞれの研究成果は以下の通りである。

(1)「21世紀型スキル」の導入とその具体的内容

アルバータ州とブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州における政策文書の分析と現地調査の結果から、各州における「21世紀型スキル」の具体的な内容と導入過程、カリキュラム上の位置づけについては、それぞれ以下のような内容が明らかになった。

アルバータ州における「コンピテンシー」の具体的内容

アルバータ州では、「21世紀型スキル」は「コンピテンシー」という名称で提示されている。「コンピテンシー」は、「批判的思考力」「コミュニケーション力」「問題解決力」「協働する力」「情報収集・管理能力」「文化的・グローバルなシティズンシップ」「創造性とイノベーション」「個人の成長と幸福(Well-being)」という8つの資質・能力で構成されている。それぞれのコンピテンシーについて、その具体的説明と、それがどのような言動で表出するかがという指標や事例が挙げられている。

これらのコンピテンシーは、児童生徒の学習における知識、スキル、態度の結合体として位置づけられており、どの教科においても採用できるコンピテンシーの行動指標が示されている。そして、それらの行動指標が、それぞれの教科において、どのような行動として表れてくるかについて、具体例が提示されている。

ブリティッシュ・コロンビア州における「コア・コンピテンシー」の具体的内容とカリキュラム上の位置づけ

ブリティッシュ・コロンビア州では、「21世紀型スキル」は「コア・コンピテンシー」という名称で提示されている。「コア・コンピテンシー」は、「コミュニケーション」「思考力」「個人的・社会的コンピテンシー」という三つのコンピテンシーによって構成されており、それぞれ以下のような具体的な能力・資質が示されている。

まず「コミュニケーション」は、「(考えを共有し、発展させるための)他者との関わりや繋がる力」「情報を収集し、解釈し、提示する力(探究する力を含む)」「活動を計画し、

実行し、評価するために協働する力」「経験や達成した内容について、振り返り、説明する力」で構成されている。

次に、「思考力」は、「創造的思考力 (Creative thinking)」と「批判的思考力」で構成されており、前者は「新規性 (novelty) と価値を生み出す力」「発想力」「アイデアの構築力」、後者は「分析し批判する力」「探究する力」「計画する力」がそれぞれの具体的内容として提示されている。

そして、「個人的・社会的コンピテンシー」は、「ポジティブな個人的・文化的アイデンティティ」「自己に対する理解と責任」「社会的責任」という三つの内容で構成されており、「ポジティブな個人的・文化的アイデンティティ」は、「他者との関係や文化的背景を理解する力」「個人の価値を認識し、選択する力」「自己の長所と能力を認識する力」「自己に対する理解と責任」は「自己決定力」「自己を規制する力」「幸福と健康を維持する力 (Well-being)」そして、「社会的責任」は「コミュニティに貢献し、環境を守る力」「平和的な方法で問題を解決する力」「多様性を尊重する力」「他者との関係を構築する力」が、それぞれの具体的内容として提示されている。

ブリティッシュ・コロンビア州では、深い学びを支援する要素として「内容(知る)」「カリキュラムにおけるコンピテンシー(する)」「ビッグ・アイデア(理解する)」の三要素が挙げられており、「知る・する・理解する」モデルに基づく学習を基盤としたカリキュラムモデルを構築されている。このように、児童生徒の深い学習を支える要素として位置づけられている。

オンタリオ州における「21世紀型コンピテンシー」の具体的内容

オンタリオ州では、「21世紀型スキル」は「21世紀コンピテンシー」や「グローバル・コンピテンシー」という名称で示されている。オンタリオ州における「21世紀型コンピテンシー」は、市民との対話に基づき、「認知的スキル」「対人関係スキル」「個人内の (intrapersonal) スキル」の三つの領域に分けられた内容が提示されている。その一方で、2014年8月現在、全72の教育委員会のうち、英語系では半数以上、フランス語系では3分の2以上の教育委員会において、独自の「21世紀型コンピテンシーをスキル」が示されている。オンタリオ州においては、これまでの国内外における「21世紀型スキル」についての議論をふまえて、また、市民との対話を進め、各教育委員会での取組もふまえて、州としての「21世紀コンピテンシー」の具体的内容の検討が進められている。

以上のような結果から、各州で示された「21世紀型スキル」の内容は、これまで国内外において示されてきた能力観に加え、個人の理

解や幸福について考えるためのコンピテンシーがいずれも含まれているという特徴が明らかになった。また、教育課程において、学習の基盤として位置づけられていることが明らかになった。

(2) 「21世紀型スキル」の検討と導入

「21世紀型スキル」の検討過程について、各種報告書や現地調査の結果、以下のような内容が明らかになった。

いずれの州においても、「21世紀型スキル」の検討が開始された時期は異なるものの、議論の過程において、教育関係者や専門家だけではなく、多様な文化的・社会的背景を持つ市民からの意見も採用しながら、構築されている。例えば、アルバータ州の場合、2009年より、個人やコミュニティにおいて、また、オンラインという手法も用いながら、多様な民族的・文化的・社会的背景を持つ市民との対話の機会が設けられた。その結果、2030年の「教育を受けたアルバータ市民 (successfully educated Albertan) 像」が構築され、「教育に焦点を当てた」「学習者中心」の「コンピテンシーの育成」と「知識の創造と共有を支援する技術の活用」を目指した教育政策の方向性が示された。また、オンタリオ州の場合、2010年より教育省内において「21世紀の教授・学習 (21st Century Teaching and Learning)」というプロジェクトのもと、アルバータ州と同様に専門家や教育関係者だけでなく、多様な背景を持つ市民の意見を吸い上げながら議論が進められている。

このような事実から、議論の過程においては様々な市民との「対話」が重視され、同時に「熟慮」をしながら議論が進められてきたことがその特徴として明らかになった。またそれは、市民と教育省という関係性だけではなく、教育制度に関わる機関や関係者においても「対話」が重視され、議論の対象の意味を「熟慮」する文化が醸成されていると言える。

(3) 先住民教育における教育課題と「21世紀型スキル」

先住民に対する教育における「21世紀型スキル」の位置づけについては、本研究において十分に明らかにすることができなかった。いずれの州においても、先住民教育の主眼は、児童生徒の学力の向上や学力間格差の縮小という点に置かれており、先住民のコンピテンシーの育成という観点からというよりも、これまで指摘されてきた先住民の児童生徒における学力をめぐる課題を克服するためのものとして位置づけられているといえる。

ただ、これらの学力の問題の背景には、先住民の児童生徒をめぐる社会的・文化的・歴史的問題が複雑に絡まっており、単なる学力の問題として捉えることはできない状況にある。それに対しては、例えばオンタリオ州の場合、2018年度より順次導入されている

カリキュラムには、寄宿舎学校制度や条約、インディアン法を含む、先住民の歴史や文化に関する児童生徒の知識の習得や理解の促進という目的のもと、既存の教科・科目の教育課程の中に先住民の歴史や文化に関する内容が反映されている。これは、カナダ真実和解委員会が2015年に示した実施要綱(Call to Action)への対応として改革が行われたものであり、先住民の教員、長老、議員、先住民団体の代表との協働のもとで改訂が行われている。また、前述した各州における「21世紀型スキル」に関する市民との対話の過程において、聞き取りや対話を行ってきた「市民」の中には、先住民も含まれている。

以上のことから、先住民教育における「21世紀型スキル」のあり方は検討できなかった者の、近年構築されてきた「21世紀型スキル」や「市民像」の中には、先住民の立場からの意見も反映されていると言える。

(4) カナダにおける「21世紀型スキル」の受容とその特徴

以上の内容から、カナダにおける「21世紀型スキル」の受容とその特徴として、次の三点が明らかになったと指摘することができる。

第一に、各州で示された「21世紀型スキル」には、個人の理解や幸福について考えるためのコンピテンシーがいずれも含まれているという特徴が明らかになった。

第二に、その教育課程における位置づけについては、学習の基盤を支えるものとして位置づけられていることが明らかになった。

第三に、「21世紀型スキル」の構築においては、いずれの州においても、それまで国内外でなされてきた議論や定義をふまえて、それぞれの州の社会的・文化的背景を反映した内容を提示するため、様々な背景を持つ市民を巻き込みながら、その具体的内容が構築されてきた。このように、構築の過程においては「対話」と「熟慮」の文化を基盤となっていることが明らかになった。

今回、多文化社会における「21世紀型スキル」の育成の汎用性という観点から議論を行うためには十分な結果は得られなかったが、「21世紀型スキル」そのものを議論する段階から、多様な立場や背景を持つ市民の意見を反映する手立てが整えられているという事実や「対話」と「熟慮」を重視する文化に基づいて議論されているという事実は、その汎用性について議論する意味自体も検討に値するというを示していると考えられる。この点は今後の検討課題としたい。

[引用文献]

1. Alberta Education (2016). Competencies: Description, Indicators and Examples. <https://education.alberta.ca/media/327>

[2998/competency-indicators-september-30-2016.pdf](https://open.alberta.ca/dataset/45370ce9-3a90-4ff2-8735-cdb760c720f0/resource/2ee2452c-81d3-414f-892f-060caf40e78e/download/4492270-2010-inspiring-education-dialogue-albertans-2010-04.pdf)

2. Alberta Education (2010). Inspiring Education: a Dialogue with Albertans. <https://open.alberta.ca/dataset/45370ce9-3a90-4ff2-8735-cdb760c720f0/resource/2ee2452c-81d3-414f-892f-060caf40e78e/download/4492270-2010-inspiring-education-dialogue-albertans-2010-04.pdf>
3. British Columbia Ministry of Education (2017). Defining Cross-Curricular Competencies: Transforming Curriculum and Assessment (Draft). http://www.bced.gov.bc.ca/irp/docs/def_xcurr_comps.pdf
4. Ontario Ministry of Education (2015). 21st Century Competencies: Foundation Document for Discussion http://www.edugains.ca/resources/21CL/21stCenturyLearning/21CL_21stCenturyCompetencies.pdf
5. Ontario Ministry of Education (2007). Ontario First Nation, Metis and Inuit Education Policy Framework. <http://www.edu.gov.on.ca/eng/aboriginal/fnmiFramework.pdf>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

下村智子「アルバータ州における教育政策の転換への提言-『教育を高める: アルバータ市民との対話 (Inspiring Education: A Dialogue with Albertans)』に着目して-」『教養教育機構研究紀要』第1号、2016年、26-36頁。(査読無し)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下村 智子 (SHIMOMURA, Tomoko)
三重大学・教養教育機構・准教授
研究者番号: 80557984